

編集の視点で地域の魅力を発信

「エディット KAGAMIGAWA」第4回講座



2月12日(日)、「エディット KAGAMIGAWA」第4回講座として、東京・青山の国連大学前で開催されている青山ファーマーズマーケットに出店しました。

受講生12人と昨年度受講した1期生2人が参加。フィールドワークで訪問した鏡川流域の事業者さんの商品を仕入れ、来場者に向けて鏡川の魅力を発信しました。



受講生は第3回講座以降、お客さんに配布するフライヤーの作成やSNSでの情報発信を担当する「PRチーム」、POP作成やブースのデザインを考える「店舗レイアウトチーム」に分かれ、オンラインで交流しながら準備を進めてきました。

ファーマーズマーケット当日に参加できない受講生も、自分なりのかたちで準備に関わってくれました。

当日は早朝から現地に集まり、開場直前まで商品の配置、POP作成などに熱が入ります。

実際に鏡川流域で体験した、豊かな自然の恵みや人のあたたかさをどう伝えたいかと、頭を悩ませながらも、集まってわいわい作業する様子はとても楽しそうでした。





今回、鏡川流域から、土佐山ジンジャーエール、四方竹の水煮、ショウガ、しいたけ、なめこ、イタドリ漬、梅干し、お茶と砂糖で漬けた梅が集まりました。味が分からないものをお客さんにおすすめできない！と、開場前にみんなで試食。

鏡川流域で出会った事業者のみなさんの顔を思い浮かべながら食べると、一層おいしさが増します。

開場すると、予想以上に次々とお客さんがブースを訪れてくれました。受講生たちは、自分たちと鏡川の関係性や、これまでの講座を通じて感じた鏡川の魅力を、自分らしい言葉で伝えていました。

このブースを訪れた方が、鏡川をちょっとでも気にしてくれたら。

そんな気持ちで、一人ひとりと丁寧にコミュニケーションを取っていました。



受講生の発案で、同時に開催中の高知市の日曜市と青山ファーマーズマーケットをつなぎ、オンライン中継も行いました。リアルタイムの動画配信で、双方の会場の様子を共有できました。

この動画を見たお客さんからは「高知は何度も行ったことがあるけれど、日曜市は知らなかった。今度寄ってみます」といった言葉も聞かれました。この配信のおかげで生まれた、新たなつながりです。

受講生の元気で丁寧な PR のおかげで、初出店にして商品をほぼ売り切ることができました。編集の視点を通じて紹介することで、東京の人に鏡川流域を知ってもらう役割も存分に果たせたはず。これまでのオンライン講座や現地フィールドワークで積み重ねてきた経験のアウトプットの場として、青山ファーマーズマーケットを存分に満喫しました。



次回はついに最終回。2月28日(火)、これまでの講座を振り返り、受講生それぞれが考えた今後の鏡川流域とのつながり方を発表する報告会をオンラインで実施します。受講生たちが講座を通じてどんな関わりしろを見つけたのか、今から楽しみです。